

### 新規中小河川として、14 河川採択される

31 年度中小河川改良事業の新規河川としては、最近の災害、または他事業との関連上、着工やむを得ないものが優先され、14 河川、総事業費 2 207 百万円が決定した(表-1 参照)。その結果、中小河川改良事業としては、継続 253 河川に14 河川を加え、267 河川となった。関連事業別の分類を表-2 に示す。

表-1 31 年度中小河川新規 14 河川一覧表

府県名	河川名	流域面積 km <sup>2</sup>	計画高水 流量 m <sup>3</sup> /s	現流下可 能流量 m <sup>3</sup> /s	採 事 業 費 千円	効 果	
						耕 地 町歩	家 屋 戸
青 森	田名部川	151.9	210	100	140 000	486	1 242
栃 木	箒 川	523.0	2 100	1 000	150 000	413	125
埼 玉	元 荒川	260.0	140	98	306 000	461	23
新 潟	栖吉川	25.0	131	86	200 000	600	7 234
山 梨	浅 川	190.0	190.5	80	75 000	263	264
岐 阜	牧 田川	180.0	1 100	830	300 000	4 800	5 850
静 岡	澗 井川	207.0	700	400	100 000	400	1 550
三 重	雲 出川	511.0	4 200	2 500	250 000	3 460	3 860
岡 山	足 守川	182.0	510	310	180 000	1 080	2 511
山 口	三 隅川	50.0	480	300	150 000	2 041	1 491
香 川	一の谷川	22.5	130	80	90 000	190	2 450
徳 島	桑 野川	50.0	700	600	85 000	158	300
高 知	安 芸川	143.0	1 625	1 200	130 000	513	450
長 崎	彼 杵川	26.0	400	190	51 000	98	122
計	14 河川				2 207 000		

表-2 関連事業の分類

関 連 事 業	河 川 名
最近の災害	田名部川(30年災) 雲出川(28,29年災) 澗井川(29年災) 三隅川(29年災) 牧田川(28年災) 箒川(連年災)
土地改良事業	栖吉川 元荒川 一の谷川
国道事業	彼杵川
その他	足守川 安芸川 桑野川 浅川

### バラストクリーナの組立完了す

バラストクリーナは、4 月下旬にスイスから到着して以来、国鉄大宮工場において、国鉄の規格に合わせて、ボギー台車、ブレーキ装置、連結装置等の装備が施されていたが5 月下旬にこれが組立を完了したので、いよいよ現場の第一線に配属され、取扱講習会の終了をまつて実用に供せられる段階になった。このクリーナは、現在主として電車線の軌道更新作業などに、盛んに威力を発揮しているマルチプル・タイタンパーと同様に Matisa 社の製品で、軌道上を走行しながら、まくら木下の道床砂利を掘り起し、これをかき上げてふるい分けを行う非常に強力な機械で、レバーを切り換えることにより、発生砂利の全部を、フルイを通さずに取り捨てることもできるので、道床更換にも利用することができる。

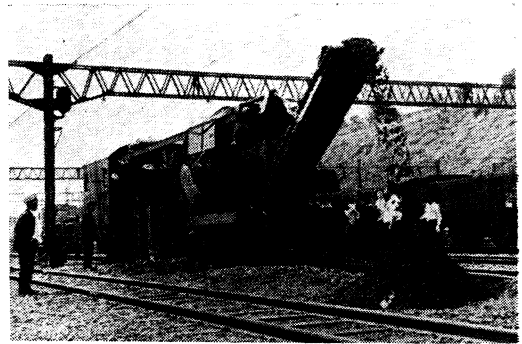
構造の概要は、ともにボギー台車に取りつけられた運転室部と作業機械部とからなり、運転室には 147 HP

(1 800 rpm) のディーゼルエンジンによつて駆動される 100 kW の発電機と自走装置の運転機構が収められている(自走装置は現在は取り付けられていない)。

作業機械部は、スクレーパッチェーン、ベルトコンベヤ、振動スクリーン、推進用ウィンチ等によつて構成されている。この機械のおもな諸元は次のとおりである。

1. 機械の型式: Matisa 製 3CB5 型
2. 回送時の大きさ: 長×巾×高=14 500×2 900×3 900 mm
3. 整備状態の重量: 約 44 t
4. 動力: 100 kW ディーゼル発電機
5. 掘さくの深さ: まくら木の下面以下 230~500 mm 調整可能
6. 掘さくの幅: 3 870 または 4 030 (mm)
7. ふるい分け能力: 240 (m<sup>3</sup>/h)

写真-1 バラストクリーナの作業ぶり



### 首都圏整備委員会の発足

4 月 25 日首都圏整備法が制定公布された。首都圏とは、東京都の区域と政令で定めるその周辺区域で、おおむね東京駅を中心とする 100 km の範囲である。本法にもとづき、去る 6 月 9 日首都圏整備委員会が総理府の外局として発足した。委員会は委員長に国務大臣、委員 4 人によつて構成され、その事務局の機構は、事務局長の下に、次のような事務を分担している。

#### 計画第一部

- (1) 宅地、主要既成工業地帯、住宅、学校等の教育文化施設の整備に関すること。
- (2) 市街地開発区域の指定、公園緑地、中央市場、屠場、火葬場、病院等の整備に関すること。
- (3) 景観計画に関すること。

#### 計画第二部

- (1) 道路、河川、水路、海岸、砂防、駐車場の整備に関すること。
- (2) 鉄道、軌道、飛行場、港湾等の交通施設の整備に関すること。
- (3) 上下水道等供給、処理の整備、工業等制限区域の

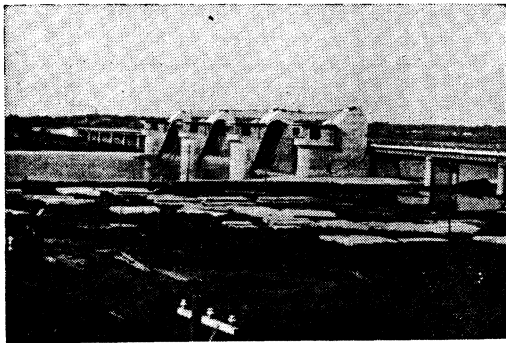
指定に関すること。

首都圏整備計画は委員会が関係行政機関の長、関係都道府県、首都圏整備審議会の意見をきいて決定される。

### 行徳可動ゼキ完成、行徳橋開通す

行徳可動ゼキは高水流量の疎通をはかり防潮並びに利水上の機能維持のために千葉県市川市地先、江戸川放水路流頭部に新設されたもので、行徳橋は放水路の改修にともなう付帯工事と道路改修の合併施工による可動ゼキ連絡橋を兼ねる県道千葉一浦安線の県道橋で昭和 25 年末基礎工事に着手以来 5 年余の歳月と約 7 億 3000 万円の工費で本年 3 月完成、去る 6 月 27 日行徳橋の開通式が挙行された。可動ゼキは地盤軟弱のため深さ約 30 m の円筒基礎上にあり純径間 30 m、高さ 4.5 m のリングダム型式のゲート 3 門を有する。ゲート 1 門の重量は 102.6 t で各門に備えた 60 HP. 電動巻揚機で 1 本のワイヤロープによる両端平衡巻揚方式により操作を行う。橋梁は全長 422.35 m、有効幅員 6 m で高水敷部は径間約 20 m 16 連、4 主桁合成桁、低水路部は長 104.5 m の 3 径間連続桁で現場接手以外は全溶接である。なお本工事は建設省の直轄工事で、橋梁の一部は千葉県の委託工事にかかり、可動ゼキおよび橋梁下部構造は清水建設、ゲート関係は播磨造船所、橋梁上部構造は桜田機械工業、高田機工の施工による。

写真—2 完成した行徳可動ゼキと行徳橋



### 1956 年国際学術会議と出席者（土木関係）

- World Conference on Earthquake Engineering at Berkelay U.S.A., 12~16, June: 天竺良吉, 岡本舜三, 平井 敦, 君島博次。
- The 23rd. Executive Meeting of the International Commission on Large Dams at Lisbon, 12~16 June: 神谷貞吉, 高坂紫朗, 平野生三郎。
- International Sub-committee on Concrete for Large Dams at Wien: 神谷貞吉, 平野生三郎。
- The 5th Congress of the International Associ-

ation for Bridge and Structural Engineering at Lisbon, 25~30 June: 平井 敦, 小西一郎, 安宅勝, 横道英雄。

- Annual Assembly of International Institute of Welding at Madrid, July: 安宅 勝, 小西一郎, 平井 敦。

### 1957 年度に予定される土木関係国際会議一覧表

- Apr-May: International Commission on Irrigation and Drainage-3rd Congress-8th meeting of International Executive Council. San Francisco.
- 7-May: International Hydrographic Bureau-7th Congress. Monte Carlo, Monaco.
- 8-21 July: 19th International Congress of the Permanent International Association of Navigation Congress. London.
- 12-24 Aug. International Society of Soil Mechanics and Foundation Engineering-4th Congress. London.
- 29 Sept. 8-Oct. International Society of Soil Science-6th International Congress.
- Sept. International Society of Geographical Patholog Conference.
- Sept. Union International des Transports Publics. XXXII Congress. Hambourg.
- Sept. International Association for Hydraulic Research Congress. Not-Fixed.
- ◎ ECAFE Tentative Calendar of events for 1957.
- Second Regional Technical Conference on Water Resources Development. Aug. Open.
- Seminar on Low-Cost Roads and Soil Stabilization. Sept. Out of Bangkok.
- Inland Waterway Sub-Committee (4th session) Oct. Indonesia.
- Highway Sub-Committee (4th session). Dec. Bangkok.

### 第 1 回日本アイソトープ会議

最近のアイソトープに関する業績、研究の成果を発表し、その技術の向上と智識の普及をはかるため第 1 回日本アイソトープ会議が 8 月 26~29 日の 3 日間にわたり開催される。主催は日本原子力産業会議、日本放射性同位元素会、毎日新聞社で、第 1 部アイソトープ会議（大手町 産経会館、第 2 部アイソトープ展覧会（新宿 伊勢丹）の 2 部に分け、同会議では 7 月 31 日までに同会議に発表する論文を募集中であるが、詳細は同会議へ問い合わせられたい（港区芝田村町 1-1 日本原子力産業会議事業部 Tel (59) 6981~3)。